



発行
KOA 森林塾
(事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

『木を植えた人々!!』

1953年に発表されたジャン・ジオノ原作の『木を植えた男』は多くの方がご存知の物語だと思えます。フレデリック・バックの印象深い色鉛筆による絵で、絵本やアニメにもなっていて、テレビCMで流れたこともあり、この主人公はフランスのプロバンス地方に住むエルゼアル・プフィエ。羊飼いの老人で、妻と子供をなくし、一人で暮らしています。



西に中央アルプスを望みながら、森林塾20年目の植林

た。20世紀の初頭から、近くの荒地にドングリの種を蒔き始め、二度の世界大戦の最中も休むことなく、89歳で亡くなるまでの三十数年間、ずっとドングリや、さらにはシラカバなどを植え続けたのでした。いつしか荒地は小川が流れ、小鳥が飛び交う広大な森となったのですが、それが彼のした

ことであると知る人は誰もいませんでした。実はこの物語はフィクションらしいのですが、誰でも、人知れず、一人だけでも素晴らしい奇跡を起こすことができる、というジオノの思いに異を唱える方はないでしょう。

世界の森林面積はおもに発展途上国において、過放牧、過伐採による砂漠化などで、毎年毎年減少しつつあります。そして砂漠化した荒地をもとの森林に戻すのは実は大変困難なことで、羊飼いのプフィエも、一年間の努力



助っ人で来てくださった「キノコの会」の皆さん、大活躍でした

をすべて棒に振ったことさえありません。一方日本では、建築用や紙の材料の木材は、大半を輸入に頼り、燃料用としては石油や天然ガスをこれまた輸入し、薪や炭の使用量も多くなっているので、幸か不幸か森林面積は僅かながらずつ増えています。先人たちの努力で植えられそうなおところは大方植え尽くして、世界でも稀に見える人工林の森林率を誇る国なのですが、間伐などの手入れは残念ながら滞ったままです。

材の値段は安値安定してしまいが、間伐をして材を出してもなかなか合わない。そのことが間伐意欲を低下させ、手入れを停滞させる悪循環となっています。

さて現在の日本では、九州など一部の地域を除いて森林の木をすべて切る、皆伐というのをほとんどしていませんので、植林をする場所は限られています。今回は資材置き場だったところを山林に戻すために、小屋を片付けた後の更地に植林をさせてもらいました。将来の山主、遠藤さんの助っ人である地元の「キノコ



地元だからまた成長を見に来られますね



地面が硬いところもあるが

地面が硬いところもあるが、植林をする場所は限られています。今回は資材置き場だったところを山林に戻すために、小屋を片付けた後の更地に植林をさせてもらいました。将来の山主、遠藤さんの助っ人である地元の「キノコ



鹿道を通過して間伐後の山林見学



近々東濃ヒノキの本場に引越すとか

今年は通年コースにご参加

の会」の皆さんも含め、プフィエの裔の『木を植えた人々』十数名での植林でした。300坪の更地に、お花見もしたい、薪も欲しい、できればキノコが出るといういななどという欲張った考えのもと選んだ、コナラ、ヤマザクラ、ブナ、アカマツの4種類合わせて400本の植林で、皆さんほとんど休憩もとらずにどんどん植えて、予定よりずっと早いお昼前の終了でした。

全国各地、同じ悩みを抱えている所はたくさんありますが、鹿の被害が特にこの地域は頻繁に起こっています。事前に植栽場所周辺には進入禁止ロープを張って

1 回
4月27日(土)
植林
8時30分 山小屋に集合。今年度の1年目の塾生の方は8人で、自己紹介をしていただきました。今年は県内の方が多く、一番遠くからは新潟県の中川さん。ありがとうございます。

講師、イントラのあいさつとオリエンテーリング。今日は信越放送のテレビクルーの取材があり、塾生の皆さんの了承をいただく。

鳥崎先生も顔を出し、あいさつをしてくださいました。

めどなく数を増やしている鹿たちに通うのかどうか、後の対策は山主さんたちにお任せです。そして、下草刈りや間伐などの手入れもきっちりできれば、10年後、20年後には素晴らしい針広混交林森が出来ていることでしょう



薪割り機の実演もありました。一台欲しいなあ!!

9時15分 車に分乗して今日の植栽現場、伊那市富県に向かう

9時50分 現場到着。薄曇りで4月の終わりだというのに肌寒い。若葉寒というのかな。

山主の山崎さん、山林を購入予定の遠藤さん一行と合流。遠藤さんに山林に対する将来の夢などを話してもらおう

10時20分 植林開始。更地で硬いところもあり、そんなところは山主さんが重機で植え穴を掘ってくれました

12時 「キノコの会」の奥様方の奮闘もあり、予想よりもかなり早い時間に植



「いつ買うの?」「今ですよ、今!!」

13時10分 すく隣の、森林塾などで間伐の実践で使わせてもらった遠藤さんの山林を見学する。ここは急傾斜地なので機械が入らず、苦勞して人力搬出をした現場です。ついでに針葉樹の樹木分類。ヒノキとサワラの区別、覚えましたが

14時 分乗して山仕事の道具を扱っているミスブ鋼機さんの見学。たまたま

15時30分 山小屋に戻り解散

参加者/井澤さん、金見さん、寿永さん、滝川さん、中川さん、中村さん、原さん、守屋さん

山主の山崎さんと遠藤さん「キノコの会」の皆さん

講師、スタッフ/早川、川島、松岡

取材/SBCの取材クルー

今日はセールをやりました。薪割り機の実演や、シヨールームの各種チェーンソーを見せてもらう。そのうちにマイ・チェーンソーが欲しくなる方が現れることでしょう

四方山話



no.1 「桜3題」

「ソメイヨシノの災難!!」

日本を代表する桜、ソメイヨシノはオオシマザクラを父とし、エドヒガンを母として、江戸時代の終わり頃、江戸染井村(現在の東京都豊島区)で生まれたそうです。当時は吉野桜という名だったのですが、吉野山のヤマザクラと混同を避けるために、1900年にソメイヨシノと改められました。染井村の植木屋が作った一本がはじまりで、日本中の、いや世界中のソメイヨシノはすべて接ぎ木で増えた、同じ遺伝子を



花の咲かない部分は「てんぐ巣病」

てんぐ巣病は樹齢千年と長い伝えられていて、こわなものも時に聞き及

持つクローンです。自家不和性が強く、サクランボは生っても種で増えることはほとんどありません。

毎年毎年この時期に民間気象予報業者(2010年までは気象庁)が発表する桜の開花予想(桜前線)は、全国各地のソメイヨシノの開花時期を予想するものですが、同じ場所に植えられているソメイヨシノは同じ時期に咲く、という同じ遺伝子を持つクローンの特徴を利用した予想でもあるのです。

「佳人薄命」という諺にもある通り、この桜は樹全体に大きな花をつけ、満開の後、短期間のうちに一斉に散ってしまふという、まことに日本人好みの桜です。そして、樹自体の寿命も一般には六十年程度といわれるほど薄命なのです。母親のエドヒガンは全国に三百年、四百年の巨樹、古木があるにもかかわらず、です。伊那市の隣、箕輪町中曽根の権現桜は、町の

資料では樹齢千年と長い伝えられていて、こわなものも時に聞き及ぶます。サクラは「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」といわれるように、切り口から腐朽菌が侵入しやすいなど、一般的には病気や害虫に弱い。また、谷筋や湿地は苦手で、根から入った腐朽菌にやられて幹が空洞になった桜をよく見かけます。なかでもソメイヨシノは特に病弱で、霧の発生するよつな川沿いや、水はけの悪い火山灰土壌などに植えつけられたソメイヨシノの多くは「幹心材腐朽病」、「こぶ病」、「てんぐ巣病」などにとりつかれています。

以前、飯田市の関連工場から、桜が「てんぐ巣病」にかかっているので見てほしい、という依頼を受け、行ってみたい。工場前の駐車場にはソメイヨシノが8本、工場設立以来植えられており、時期の休みの日には、近くの方も花見に訪れるという桜ですが、いずれも「てんぐ巣病」にかかっています。工場は河川敷横に建てられており、秋から冬はよく霧が発生するところ。風通しも悪く、ソメイヨシノにとって苦手な場所だったのです。

「てんぐ巣病」は真菌類(カビ、キノコの仲間)のタフリナ菌によって引き起こされるホルモン異常で、葉病部は鳥の巣状に極端に分枝し、花芽がつかみません。開花時にその部分だけ小さな葉が開き、見た目を著しく損ねます。葉裏から胞子を飛ばし始め、この枝は二、三年で枯死しますが、やがて樹全体に広がり、徐々に樹勢を衰えさせることとなります。今のところ薬剤による予防または治療方法は確立しておらず、葉が開く前に葉病部を切除し、焼却する方法が一般的です。早期に見つければ、これを二、三年繰り返し、とりあえずの症状は治まるといふことです。もちろん切除痕への殺菌、防腐剤塗布は欠かせません。

前述した工場のソメイヨシノはすでに何年か前から罹患しているらしく、治療痕もみられました。重症のものもあり、治療が必要であることを担当の方にお伝えしました。結局このソメイヨシノはすべて切られ、別の広葉樹に取って代わられてしまいました。

実は隅田川沿いやポトマック河畔は、この桜にとつてそんなに好きな場所ではなかったのです。数十年前に植えられた全国各地の桜の名所も、ほとんどがソメイヨシノであり、いずれの名所でもこの病気と、寿命に悩まされていると聞きます。



ウワミズザクラの総状花

「あんだ、カエデ一族を名乗っちゃいけないでしょうが!!」とつい意見したくなりますが、これは本人の責任ではありません。即ち、ウワミズザクラはれっきとしたサクラ属の一員なのです。それがはつきりするの、熟れた小ぶりなさくらんぼで果実酒を作ったときです。この香は桜以外の何者でもありません。他の桜のさくらんぼでは、こんな強烈な桜の香は出せません。秋になってようやく疑いが晴れ、サクラ属の面目躍如です。

新潟県ではこの花の蕾を軸ごと塩漬にしたものを「杏仁(あんじんにんご)」といい、お茶受けや咳止めの民間薬として使っているそうです。「大日本有用樹木効用編」という本には、芳香雅味で酒がすすむ、と書いてあります。

「ヤマザクラとは?」

ヤマザクラという種(しゅ)があります。学名も Prunus jamasakura とい、吉野のサクラで有名で、外皮はサクラのなかでは最も美しいため秋田県の角館では樺細工(刀の鞘や茶筒な



「なんのおれが桜かな!!」木肌を見れば桜の仲間

ど)の材料です。葉っぱは花と同時に出てきますが、これは桜餅に使われず。また、材は建築材、家具、建具のほか、器具や版木などにも利用される有用樹種です。広重や写楽の時代の版木は、産地で値段が違ったとか。

さてややこしいのは、これにカスミザクラやオオシマザクラを加えてヤマザクラという言い方もあり、木工をされる方は、ウヰミズザクラもヤマザクラだ、と言い切ります(ある一部かな)。もっと大雑把に山に生えてりゃヤマザクラ、里には当然サトザクラ(こんな種はありませぬ)と言いつける向きもあるよ、うで、まあ、これも一理ありますし、困ることもそんなにありません。でもまがい物のヤマザクラの葉っぱで作った桜餅は食べたくないなあ。あ、皆さん桜餅の桜の葉っぱは剥いて捨てますか？



リレー通信

定年退職したら

原 義勝



自分の好きな山歩き、きのこ採り、溪流釣り、ゴルフ三昧を夢見ていたが、いざ退職してみると、契約社員としてあと何年か勤めることは可能であったが、還暦を機にこの3月いっぱい42年間勤めた会社を定年退職しました。

私は、KOAさんのすぐ近くの南箕輪村出身で現在も同村に住んでいます。会社勤め時代は単身赴任等も含め長野県内各地の事業所をまわっていました。

もともと山や森が好きで二十代のころは赴任先で町の山岳会に入り、登山に熱中していた時期もあり、海外へトレッキングに行ったりしたこともあり。今でも年に数回は近くの山に登っています。昔は本当に登ることだけで森やキノコや山菜はあまり目に入らなかつたが

最近は何のせいか木や植物に興味湧き、そんなことから昨年、森林塾の集中コースに参加させていただきまして、3日間で貴重な体験はさせてもらいましたが、なにしろ覚えが悪いのと時間に少し余裕が持てるようになったこと、もう少し深くいろんなことを勉強したいと思いい今年は通年コースに参加させていただくことになりました。

さあこれからは森林塾に通いながら山登りやゴルフと今まで出来なかつた(いや、しなかつた)畑仕事もしっかりやろうと思つてい

た矢先に地区役員から電話がありました。なにせ田舎なもので、退職したと察知されるや否や、地区の公民館の役員をやってほしいと依頼がありました。当初の思惑通り

にはいかない次第であり、地区の公民館活動といつても村主催・地区主催の各種スポーツ大会からお祭りの御神輿、敬老会、そば打ち講習会まで盛りだくさんです。選手集めからイベントの準備・開催となにかと大変ですがこれが田舎のいいところでもあるので頑張つてやるしかないと思つていま

す。

それでも勤めていた頃と比べると時間はある程度あるので、地域のボランティアグループやサークルにも入り活動もしていこうと思つています。1つは「大泉川をきれいにする会」(天竜川の支流で地区を流れる小さな川)で土手の草刈や伐採、桜の植樹等の活動。もう1つは地元の大芝高原での「親林自然保護の会」での活動(まだ入会したばかりで私は実際の活動はしていません)。こちらは松、赤松、コナラ等の高原に自生する自然植物の保護育成(特にササユリの保護育成・増殖)のため草刈等を行い自然豊かな環境を後世に残していこうというものです。

ここ伊那谷、特に上伊那地方には広葉樹の森が少なくブナ林はあまり多くありませんが、何年前に伊那市主催で行った入笠山(鹿嶺高原トレッキング大会の

コースの一部にきれいなブナ林がありました。駒ヶ根市の戸倉山(私たちは富士山に似ているので伊那富士といっている)山頂付近にはりっぱな大木もあります。

雑誌で中央アルプス黒沢山近くにもブナの林があると知りました。私の地元の中央アルプス経ヶ岳(2296m)山麓にも大木があると聞いたのでたずねて見たいと思つているところです。経ヶ岳はちょうど鳥崎先生の山荘から北方向に見える山で登山の対象としてはこれといった見所はあまりありませんが、頂上付近から見る伊那谷と南アルプスの景色はすばらしいものです。ところで私たちの村の中学校では昔から毎年、経ヶ岳競歩大会というのがあり全校生徒が挑戦します。早い生徒はふもとの大芝高原から頂上(実際は8合目)までほとんど走って(たぶんそつだと思えます)1時間40分弱で行くそうです。私も40数年前中学生の時に参加したことは覚えていますが、ゆっくり歩いてやつと登頂できたような気がします。私も足は丈夫な方ですがそのタイムは信じられません。

大木といえば中央アルプス権兵衛峠には何回も行っているのに、峠のジャンボ唐松は見たことがありません。

行かなくてはと思つているところ。大きな木は眺めているだけで威厳があるとつか癒されますね。

東北の白神山に一度は行ってみたいし、北海道の山(大雪山とか利尻山)にも是非挑戦してみたいと思つている今日この頃です。そのためにもできるだけ毎日近くの大芝高原の森(セラピーロード)をウォーキングすることも目標の一つです。

今年(2013)は通年コースです。今年も一年よろしくお願ひします。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp



おわりに

今年の春の寒さは異常で、連休後半に霜が降りて氷が張り、畑に植えた胡瓜の苗が全滅してしまいました。連休中の長野県内は山岳遭難が相次ぎ、また咲いたばかりの花芽をやられて果樹被害も相当なものだそうです。

今日あたり、ようやく5月らしい暖かな一日で一息ついた気がしました。

今年も一年よろしくお願ひします。